

# 国際企業関係法学科

Department of International  
Law and Business

グローバルな視点を通して法と経済を学び  
地球規模での課題解決能力を身につける。

法と経済の知識を併せ持ち、地球規模で活躍できる、国際社会のリーダーを育成。  
グローバル社会における企業活動で生じる法律問題を軸として  
法律と経済の両面から、企業が果たす役割と価値について理解を深めています。

## 学びの特色

少人数教育で丁寧な学びを実現  
一人ひとりの個性を将来につなげる

法律と経済という二つの領域の専門的かつ実践的な知識を培うため、学科では1年次からはじまるゼミナール形式の「法学基礎演習」をはじめとして、少人数体制による丁寧な教育を実現。幅広いキャリアの可能性の中から、一人ひとりの関心に合った進路を描くことができます。

法と経済に加え、外国語の修得にも注力  
世界を見据えた未来の人材へ

グローバル化の進む社会で活躍するには、専門知識はもちろん、異文化への理解や語学力も欠かせないスキルとなります。1年次から充実した外国語教育を展開し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を中心として、世界で活動するための必須技能を身につけます。

- 活躍をめざすフィールド
- 金融／メーカー／マスコミ等の幅広い一般企業
  - 外資系企業やグローバルに事業を手掛ける国際企業
  - 企業の法務部門
  - 公務員
  - ロースクールを経て法曹へ(弁護士・検事など)
  - NPO／NGOをはじめとする各種国際機関など

## PICK UP

英語で専門分野を学ぶ授業を展開  
留学生との交流を通して視野を広げる

語学力だけでなく、国際感覚や異文化理解を磨くために、法学院では国際企業関係法学科を中心として、法と社会の関係について、国際比較の視野で学ぶ専門総合講座「日本法入門／比較憲法」など、留学生とともに学ぶ機会や英語で専門科目を学ぶ機会を豊富に用意しています。



4年間の学びと留学経験をもとに

卒業後は大学院へ進みます



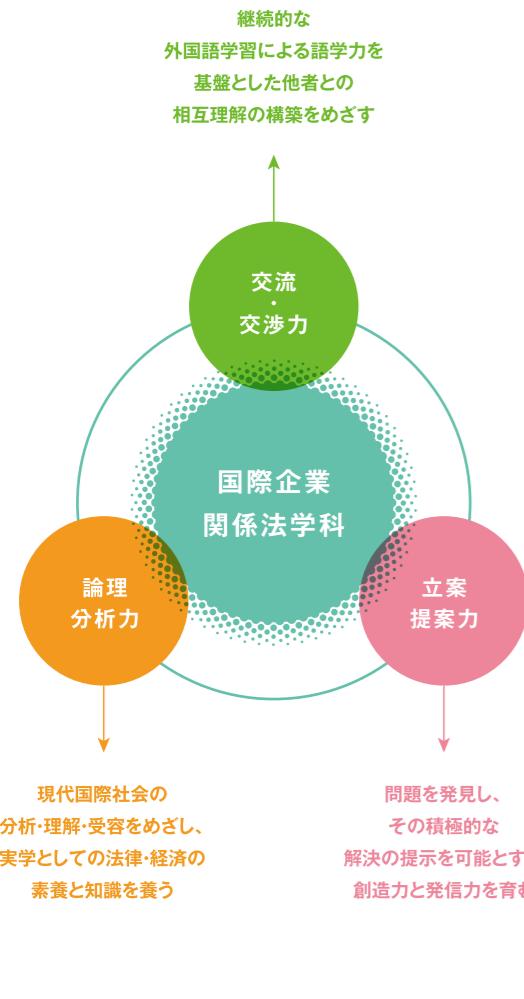
## STUDENT'S VOICE

国際法や国際政治を学びたいと思い、語学の修得にも力を入れている本学科へ進学しました。入学後は国際紛争解決法や国際人権法など、より専門的な科目を履修したので、当初は漠然としていた目標が徐々に明確になっていきました。また、3年次にはフランスへ留学しました。選択外国語で履修していたフランス語を集中的に学び、留学先では上記の専門科目に加え、地政学や政治哲学など幅広い科目を学べました。入学当初は将来の目標がはっきりしていませんでしたが、本学科の授業と留学の経験からより深く国際法と国際政治を学びたいと考えたので卒業後は大学院に進学する予定です。

4年 キャパー マイケル | ツイード・リバー高校(オーストラリア) 出身

進学先 京都大学大学院

## [修得できる3つの力]



1年次	2年次	3・4年次
<p><b>科目例</b></p> <p>現代社会と法学・社会科学の接点に触れる科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「民法総則・物権総論」 具体的な事案により民法総則と物権総論を修得する</li> <li>○「ミクロ経済学」 ミクロ経済学の体系的な知識を修得する</li> <li>○「比較法文化論」 異文化間コミュニケーション能力を法律学の視点から体得する</li> <li>○「外交と国際法」 外交と国際法の相互作用や事例を理解する</li> </ul>	<p><b>進路別に体系化された科目群</b></p> <p>法學・社会科学の専門性を深める科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「企業法総論」「企業取引法」 商法・会社法など企業に関する法を学修する上での基礎的理解と知識を獲得する</li> <li>○「マクロ経済学」 マクロ経済学の体系的な知識を修得する</li> <li>○「国際法総論1・2」 国際法の歴史および現代国際法の主体や、その形成と適用について学ぶ</li> <li>○「平和論」 秩序と正義の関係や国際事象を身近な問題として捉え、問題の原因と解決策を考察する</li> </ul>	<p>法學・社会科学の応用展開を図る科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「経済法(独占禁止法)」「経済法(経済規制法)」 公正かつ自由な競争のための法的規制として、独占禁止法や規制改革について学ぶ</li> <li>○「開発の国際法」 国際社会の開発問題への取り組みの歴史や南北問題への国際法のアプローチを学ぶ</li> <li>○「企業財務論」 リスクを考慮した判断・意思決定・評価について基礎と実践の面から学ぶ</li> <li>○「財政学」 財政分析の一般的枠組みや租税政策、公共支出、社会保障および財政政策・財政再建について学ぶ</li> <li>○「国際人権法」 国際的な視点から、人権問題を学ぶ</li> </ul>

## 卒業後の進路



## 継続した能動的学修・外国語学習科目



●「海外スタディツアー」



●「短期海外プログラム」現実の社会秩序や課題解決と法の関係について学び、長期休暇中に短期の海外研修を行う。

## 法学基礎演習A

少人数のゼミで法学院における  
学修の基本と技法を学ぶ



Reading  
Inquiry-Based Interactive Learning  
Project-Based Learning  
より高度な英語能力と英語で学ぶ能力を養う

## 法学基礎演習B

少人数のゼミで各種法領域の  
基礎を学ぶ



ドイツ語  
フランス語  
中国語  
やる気ある人のための  
「インтенシブ・コース」  
あり

## 専門演習

少人数で専門学修を行う



上級英語  
上級ドイツ語  
上級フランス語  
上級中国語

自肃期間中の強みは「時間」と気づき  
「やってみよう!」精神が芽生えました

高校時代から関心があった難民問題について学ぶため、2年次にアクティブ・ラーニング海外プログラムに参加しました。オーストラリアの難民政策を調べ、実際に避難した難民の方から生の声を聞きました。一方でメディアへの関心も強く、3年次には学科の垣根を越えて政治学科のゼミに入り、「海外と日本メディアの報道の違い」について学びました。卒業後は報道機関に就職します。大学時代に培った「やってみよう・経験してみよう」の精神で、目まぐるしく変化する世界の動きを取材し、皆さんが目にニュース番組の制作に携わりたいと考えています。

4年 天目石 史織 | 私立日本女子大学附属高等学校(神奈川県)出身

内定先 日本テレビ放送網株式会社



課題意識の追究にともなう志向の変化  
そこに対応する柔軟さも本学科の利点です

3年次以降の科目選択の幅が広いので、その時点の自分に合った講義を受けつつ、将来を方向づけていくのも本学科の利点です。私は元々、外交官を志望していました。しかし、1年次に参加した外務省主催のプレゼンコンテストを契機に課題意識が高まり、後のFLPや専門演習を通して関心が移行、民間ビジネスの最前線で活躍したいという思いが強くなりました。卒業後は自動車メーカーへ就職します。大学4年間で身につけた論理的かつ批判的思考と実践的なコミュニケーション能力を活かし、世界の人々の支えになれるよう力を発揮していきます。

4年 前中 翔太 | 国立大阪教育大学附属高等学校池田校舎(大阪府)出身

内定先 トヨタ自動車株式会社

